

「地域に誇りを持ち、生涯にわたって学び続ける生徒の育成」
～地域とともに育む 人とつながり 学びに向かおうとする力～

- 重点目標 ①生徒の確かな学力の育成に向けた、主体的な学びを引き出す授業づくり
②生徒が安全で安心できる居場所づくり
③教職員が協力・協働のもと、働きやすくやりがいを感じる環境づくり

豊かな人間性

- ・体験学習や学校行事を通して、創造性、協働性の育成とともに、自己有用感の伸長を図る。
- ・命を大切に、他者との違いを認め合うことのできる心を培う。
- ・未来に向けて主体的に人生や社会を切り拓く人づくりの基盤としての道徳性を養う。

健康・体力

- ・学校教育全体で食育に取り組み、望ましい生活習慣の形成や食に関する自己管理能力を育成する。
- ・体力・運動能力の向上を図る態度、並びに心身の健康を保持増進する資質・能力を育成する。
- ・感染症予防のための能力・態度を育成する。

何ができるようになるか ○学校教育の基本

- ・自分の考えを書いたり発表したりできる。
- ・自分と異なる考えを聞いて受け入れられる。
- ・的確に物事をとらえ課題を解決できる。
- ・知識・技能、思考力・判断力・表現力・学びに向かう力・人間性

資質・能力の育成

何が身についたか ○評価を通して学習指導を改善

- ・学び合いを通じて、自分と異なる意見を受け入れて考えを広げるなど、主体的に学ぶこと。
- ・学習したことや体験したことを生かして、学びの質を高めること。

【生徒の実態】

- 素直で明朗快活
〈課題〉
- ・自分の考えを伝える力
 - ・物事を適切に読み取る力
 - ・自己有用感と規範意識
 - ・他者との好ましい関係を

子どもの発達をどのように支援するか

- ・利他性、協働性、社会貢献意欲などの人とのつながりによるウェルビーイングの向上を図る。(安心・安全な学校づくり)
- ・学校全体で「学び合い」「支え合い」ができる雰囲気づくりを進める。
- ・学校(教職員全体)と関係機関や地域・保護者との協働と連携を図る。

【目指す生徒像】

- ・自ら取り組む(自主)
- ・言動に責任を持つ(責任)
- ・自他を大切に(思いやり)

何を学ぶか(教育課程の編成)

- ・3年間を見通した授業づくりを進める。
- ・言語活動の充実により読解力や表現力の向上を図る。
- ・1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進する。
- ・「探究的な学びの創造プロジェクト事業」の成果を生かし、引き続き探究的な学びを実践する。

どのように学ぶか(教育課程の実施)

- ・全体計画・年間指導計画により「単元を通してつきたい力」を明確化する。
- ・教科の特質と教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程を編成する。
- ・「めあて」を明確にし、「学びあい」活動を進め、「振り返り」を確実にを行う授業を展開する。
- ・主体的・対話的で深い学びを実践する。

実施するために何が必要か(指導・支援体制の充実、家庭・地域との連携・協働)

- ・校内研修活動(毎学期に研究授業を実施、全員による研究協議)を推進する。
- ・教育課程上の工夫と新しい評価について保護者の理解を深める。
- ・保護者や地域との情報共有を進め、連携して教育にあたる。

安全・安心を守る

- ・いじめや不登校の未然防止に向けた取組の推進
- ・危機(防災)管理の徹底 不適切な指導の根絶
- ・相談しやすい環境づくり(教育相談活動等の充実)
- ・特別な支援や配慮が必要な生徒への対応

開かれた学校づくり

- ・学校ホームページの充実と定期的な更新
- ・学校運営協議会によるコミュニティ・スクール
- ・地域行事への参加、ボランティア活動の推進
- ・地域・保護者・校区内小学校との連携推進

重点目標に係る実施目標

1 生徒の確かな学力の育成に向けた、主体的な学びを引き出す授業づくり

- ①主体的・対話的で深い学びとなる「学び合い」や探究のプロセスを取り入れた授業実践を行う。
- ②公開授業を実施し、研究協議を行う。また、その方法についても工夫し、組織的に進める。
- ③兵庫型学習システムにおいて、習熟度別を含む、生徒の実態に対応した授業づくりを進める。
- ④生徒が家庭学習等、自主的に学習することができるよう、個に応じた工夫ある指導を進める。
- ⑤「ひょうごがんばりタイム」の継続実施とともに家庭学習の習慣化を進める。
- ⑥ICTの効果的活用を進める。
- ⑦「デジらく採点システム」の活用を進める。
- ⑧生徒の学びの継続と深化を図るため、小中連携を図る。

2 生徒が安全で安心できる居場所づくり

- ①本校におけるすべての教育活動を人権基盤で捉え、生徒との対話を重視し、内面理解に努める。
- ②生徒の居場所づくりを進め、安心して登校できる学校づくりを進める。
- ③生徒自身が「自分たちが学校を創っていく」という当事者意識を高め、生徒の力による学校づくりや学級づくりを推進する。
- ④校内委員会・係会の定期開催により、情報共有とともに指導・支援のあり方を検討し、生徒や保護者への継続的・計画的な支援を行う。
- ⑤いじめアンケートや生活アンケートを定期的実施し、集約・集計に基づいた教育相談を行う。
- ⑥全校生徒を対象に、SNS等に対応した講演会（研修会）を実施する。
- ⑦コミュニティ・スクールを土台にした「地域とともにある学校づくり」、並びに「信頼される学校づくり」を進める。

3 教職員が協力・協働のもと、働きやすくやりがいを感じる環境づくり

- ①「学校ルールブック」の活用などによる学校業務改善を進める。
- ②業務改善により、効率的な指導及び業務の遂行による勤務時間の縮減等を図る。
- ③ICTを活用することにより業務の効率化簡素化を図る。
- ④職員会議と職朝の時間短縮を図る。
- ⑤各種委員会や学年会議等の、開催における工夫や協議内容の焦点化を行い、時間短縮を図る。